

生ごみを堆肥にして家庭菜園やガーデニングを楽しみませんか

コンポスト容器の使い方

生ごみは、酸素（空気）を好む微生物によって分解され、堆肥になります。
虫がわいたり、嫌な臭いがするのは、微生物にとって居心地の悪い状態なのです。

使い方の手順

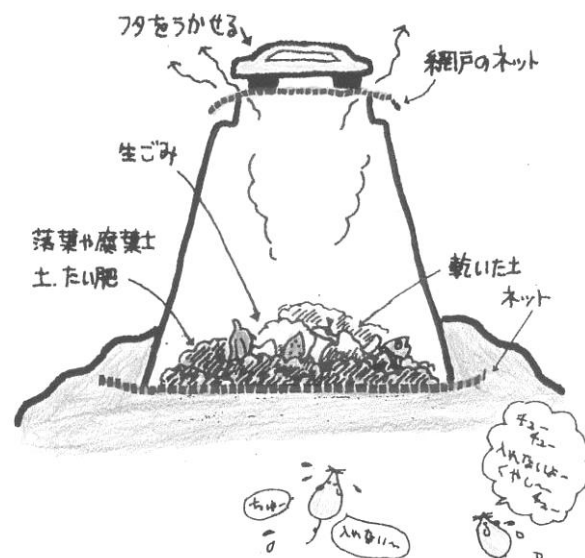
- ①コンポスト容器の底に、落ち葉・枯れ葉・枯草・もみがら・もみがら薫炭・米ぬか・ゼオライトなどの乾いたものをバケツ1杯分くらい入れます。
- ②生ごみを入れて、①と混ぜ合わせます。
- ③生ごみを入れ続けて容器の中が湿っぽくなってきたら①の乾いたものを、また入れます。

重要ポイント

- ①コンポスト容器を上手に使うコツは水分調整です。
 - ・堆肥化に適度の水分は必要ですが、コンポスト容器使用上のトラブルの多くは水分過多によるものです。
 - ・生ごみは水分を切ります。水切りの基本は「最初から濡らさないこと（注1）」です。
 - ・コンポスト容器の中を水分でベトベトにしないようにしましょう。発酵による水分（湯気）を逃がして、結露しないように使いましょう。（注2）
- ②コンポスト容器の中を切り返してください。（かき回す＝酸素（空気）を入れる）（注3）
お天気のいい日はふたを開けて、風と太陽の光を入れましょう。その際は、虫よけのネットなどをかけると良いでしょう。
- ③米ぬか・堆肥などは発酵を促してくれます。
- ④魚の頭や内臓は虫が出やすいので、一度火を通してから入れると扱いやすくなります。
- ⑤生ごみは新鮮なうちに入れましょう。腐敗したものは使わないようにしましょう。

設置について

- ①水はけの良い場所に設置しましょう。
- ②ネズミの侵入を防ぐため、容器の底に目の細かいネットを使用するか、30cmくらい、深く埋めましょう。
- ③ふたを浮かせて、発酵による水分を蒸発させましょう。
また、雨水などが入らないよう注意しましょう。



（注1）水切りの基本「生ごみを最初から濡らさない」とは！

- ・流しの、水のかからないところに「生ごみ入れ」を準備します。
- ・「生ごみ入れ」は不要になったビニール袋・ボール・ざる・鍋など。
- ・直接、その中に調理屑など堆肥化できるものを入れます。
- ・野菜などは、皮をむいてから洗います。



（注2）「コンポスト容器の中を、結露しないように使う」とは！

- ・堆肥化に必要な水分は60%程度ですが、野菜等の水分は、80～90%以上もあり、その差が水分過剰になり結露します。
- ・水分が多くなると空気が通らなくなり腐敗していきます。
- ・発酵によって生じる水分を逃してあげると上手くいきます。

- ・コンポスト容器は密閉容器なので、フタを浮かせ、虫がこないように、雨が入らないように、仕掛けをすると、楽に使えます。



（注3）「コンポスト容器の中を切り返す（かき回す）」とは！

- ・生ごみは、空気を好む微生物によって分解されます。かき回すことで、中に空気が入っていきます。
- ・生ごみを入れる度に、混ぜ合わせると良いです。

★ワンポイントアドバイス★

コバエがわいた時

- ・コンポスト容器の中に、米糠500g～1kg程度を全体に混ぜ、生ごみの上にお布団をかけるように新聞紙をかけ、フタをして3～4日、そっとしておきます。中は50℃以上に温度が上がり、コバエ等はいなくなるはずですが。
- ・注意すること2点。
 - ①米糠は固まりやすいので、後でほぐしてあげる。
 - ②発酵により水分が出るので、結露しないように蒸気を逃してあげる。



コンポスト見なおし隊

